

早稲田大学 スポーツ科学部 英語 講評

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	大問5題で、問題の形式も昨年と同じ。スポーツ科学部は毎年問題の形式などを変えてきたが、ここ数年は固定されてきた。分量もほぼ昨年並み。読解問題の文章は昨年並みの難易度だが、設問はやや易化したと思われる。文法の難易度は昨年と同じ印象だ。3、4年前までは読解問題も文法問題もなかなか解きにくいものがあったが、ここ数年は英文の内容も読みやすく、文法もこれといって難問奇問に類するものはなくなり、かなり易化してきたと言える。読解問題に関しては、さすがスポーツ科学部らしくスポーツ、健康に関する文章が多いのだが、今年はあまりスポーツに関係する文章とは言えないものであった。ただ、学部が学部なので、スポーツや健康に関する英文にできる限り触れるようにするといいだろう。IV、Vに関しては、ここ数年に関する限り、教科書や問題集に出ている基本事項をしっかり身につけ、標準レベルの文法・語法などをしっかり押さえておけば対処できる問題と言えそうだ。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	長文読解問題	分量はやや増え、段落要約文の問題がやや難しくなったか。段落要約文はスポーツ科学部の定番。法学部や国際教養学部でも出されているが、正解選択肢は本文とは語彙や構造などがまったく違うことが多いので、段落内の該当箇所と選択肢を正確に読めるかがポイントだ。たとえば、 <i>the scope, main points, and implications of the study</i> と書かれた選択肢では、本文のどこが <i>scope</i> なのかと見極める力が必要ということになる。(3)の下線部の意味を問う問題は、早稲田大学の他の学部ほど難単語が狙われるわけではないが、 <i>malleable</i> は難単語。 <i>more malleable and receptive to new information</i> となっているので、まずは <i>more</i> がヒント。程度を表す語となる。 <i>and</i> もヒント。 <i>receptive</i> と似たような意味かもしれない。 <i>to</i> もヒント。 <i>malleable to</i> とつながっているのかもしれない。正解選択肢の <i>adaptable</i> も後ろに <i>to</i> を取ることができる。いろいろ類推の仕方を学ぶことが重要となるのは確かだ。	標準
II	長文読解問題	分量、レベルは昨年並み。ただ、設問数が昨年と比べるとかなり多かった。リード文のある内容不一致問題と下線部の意味を問う問題、それに空所補充問題で構成されている。内容不一致問題は、解いている途中で内容一致問題と勘違いしてしまうことが多々ある。本文に合致しているものを選んでしまい、途中で分析をやめてしまうのだ。気をつけたい。空所補充問題は結構レベルが高い。前置詞の <i>as</i> の前後はイコールになる。 <i>see</i> に時代や年代が主語になる用法がある。 <i>odds</i> に「困難」の意味があるなど、簡単ではないが、いい意味での高い知識を問うていると言えそうだ。下線部の意味を問う問題は、例によって、意味を知っていないといけないものと難語に下線が引かれていて、その前後で類推しないとイケないものがある。前者は <i>ultimately</i> 、後者は <i>Lore has it, de rigueur, demoralizing, the holy grail</i> となる。1は <i>Rumor has it that</i> ～「～といううわさだ」という表現がある。 <i>has it that</i> ～は「～と言う」の意味。2は <i>de rigueur</i> に関しては、 <i>it is not until</i> ～ <i>that</i> …「～して初めて…」の…にどのような内容が入るのかを考える。4は <i>moral</i> ではなく <i>morale</i> を思い起こせば <i>demoralizing</i> は類推できそうだ。いろいろな類推の仕方を考えるといいだろう。ある意味楽しくなる。	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
III	長文読解問題	女性のテニス選手が書いたものだが、ほとんどスポーツとは関係のないテーマ。分量は少し減ったが、レベルは昨年並みか。商学部で必ず出題される TF 問題は該当箇所が見つければそれほど難しくはない。下線部の意味を問う問題は、訳を知っていても正解を導くのは意外と大変だ。speak out「はっきり自分の意見を述べる」は speak one's opinion eloquently か publicly か? initiative のようなカタカナになっているのも意外と英語の正確な意味は難しい。「計画」の意味がある。英語を勉強するとき何を学んでいかないといけないかが見える問題かもしれない。空所補充問題は2題。～all male and female employees must be compensated equally. Not close. Not almost the same. (1).で equally が正解だ。「近くはない。ほぼ同じでもない。平等だ」と男女平等に近づく流れがおもしろい。	標準
IV	語(句)空所補充問題	空所補充形式の文法問題。今年は1以外は基本に属する問題であった。1の border on ～「～(極端なもの)に近い」はかなり難しい熟語で、～は普通名詞だが、the+形容詞も可能なので、the が正解。これは難問。2以降は talk A into ～ing「Aを説得して～させる」、must の後ろが原形か完了形か、provided (that) ～「もし～ならば」、turn in ～「～を提出する」がポイント。今年は1が難しかったが、満点を目指していい大問だ。	やや易
V	正誤問題	NO ERROR のない正誤問題。早稲田の社会科学部や人間科学部の正誤問題は非常に解きにくいのだが、スポーツ科学部の正誤問題はやや解きやすい問題と言えそう。今回は、離れた主語と動詞の数の一致、現在完了形の受動態、would have+過去分詞の形、形容詞と名詞の品詞の区別、as far as I am concerned の熟語がそれぞれポイント。どれも結構基本だが、意外と間違っている箇所に気がつかないことが多いので、この正誤問題に関しては、できる限り類似の問題に触れることが重要となりそう。	やや易